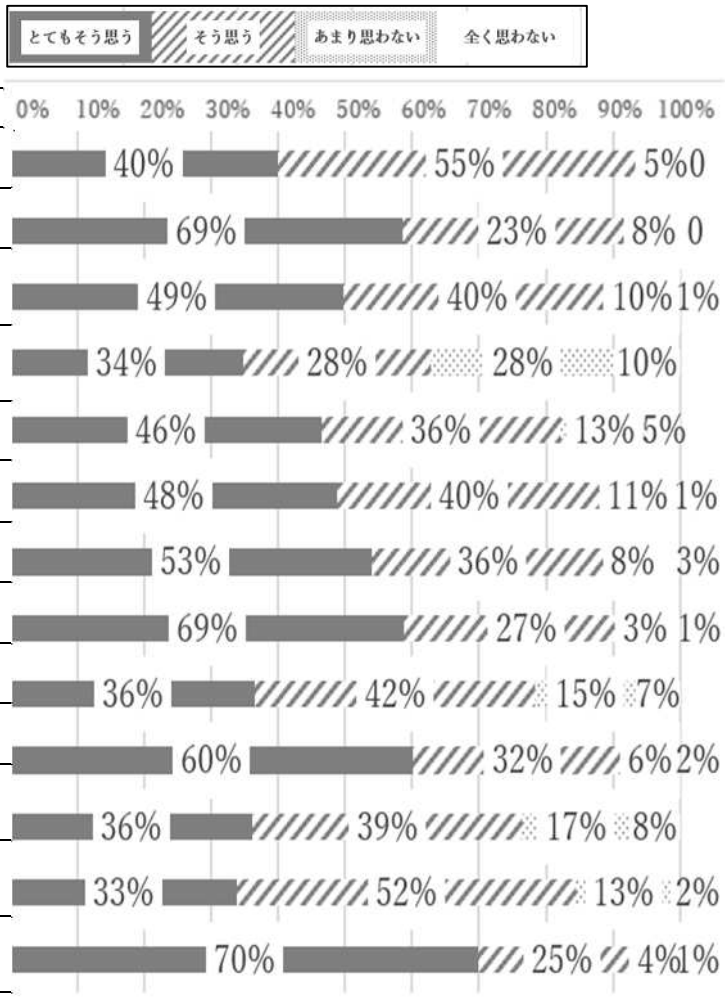
令和３年度　王子第五小学校　学校評価アンケート集計結果

北区立王子第五小学校
校長　　清水　智子

保護者の皆様におかれましては、お忙しい中、本校の学校評価にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。いただきましたご意見を基に来年度の教育課程を作成し、子どもたちのために豊かな教育活動が実践できるよう努力して参ります。

（１）児童アンケート集計結果

	設　問
①	学校や学級のきまり（やくそく）を守っている。
②	近所の人、友だちにあいさつや返事をしている。
③	授業で分からないことはそのままにせず、分かるまで取り組む。
④	家では、自分で計画を立てて勉強している。 ア:しない　イ:10 分～30 分　ウ:40～60 分　エ:60 分以上
⑤	進んで運動し、体力をつけるようにしている。
⑥	やらなければならないことは、責任をもってやりぬいている。
⑦	学校（学級）での学習は楽しい。
⑧	先生は、いろいろな話をよく聞いてくれる。
⑨	自分には「こんなよいところがある」と感じることがある。
⑩	友だちのよいところに気づくことがある。
⑪	地域の清掃や当番活動など、十条の街の活動に参加することは楽しい。
⑫	困っている人を見かけたら、声をかけたり助けたりすることがある。
⑬	進んで感染症拡大防止対策に取り組み、健康に過ごそうとしている。



１３項目中、９項目についての肯定的な評価（とてもそう思う及びそう思う）が８５％以上であった。

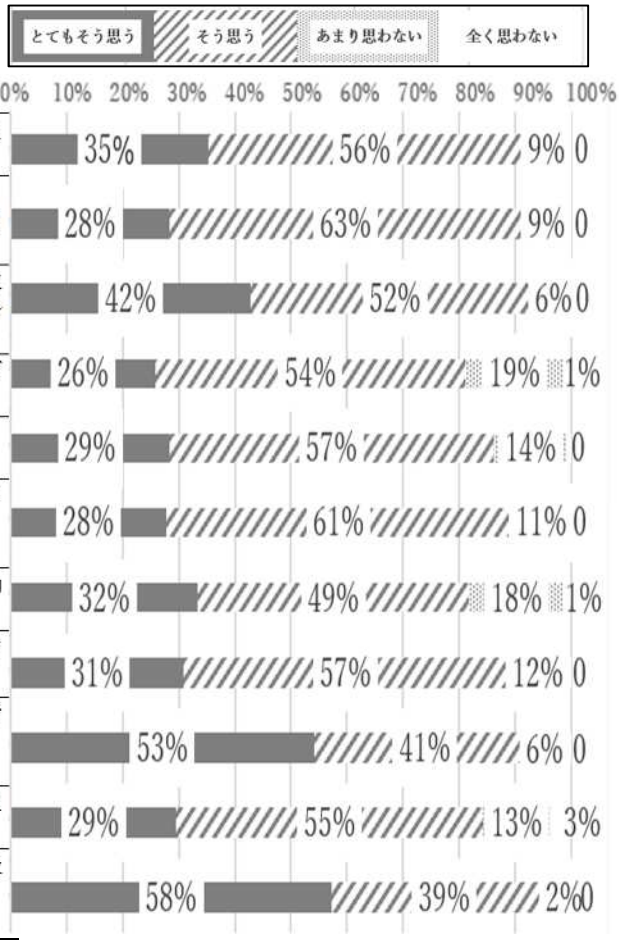
⑨「自分にはこんなよいところがあると感じることがある」と回答した児童は、全体の７９％であったが、昨年度と比較すると１６ポイントもの上昇が見られた。本校の２年間の校内研究において「学びに向かう力、人間性等」に着目した実践等を通して、児童の自己肯定感を高めてきた成果である。さらに、⑩「友だちのよいところに気付くことがある」と回答した児童も、全体の９２％であった。友だちの考えのよさに着目しながら、自分の考えを広げたり深めたりさせてきた本校の研究成果の一つであると捉えられる。

⑫「困っている人を見かけたら、声をかけたり助けたりすることがある」と回答する児童は、全体の８５％であった。今年度は、パラリンピック競技応援校として、パラリンピアンとの交流活動を始め、パラリンピック競技の学習を通して障害者理解が推進され、身近な人を大切にするために何ができるかを考えてきた学習活動の成果が表れたと考えられる。

一方で、⑤「進んで運動し、体力をつけるようにしている」と回答した児童は、全体の７９％にとどまり、昨年度と比較して３ポイント減少した。今年度もコロナ禍における活動の制限があり、その影響を受けたものと考えられる。次年度も引き続き、コロナ禍においても児童の体力向上を十分に図る取組について十分に検討し、改善を図る必要があると考えられる。

また、⑪「地域の清掃や当番活動など、十条の街の活動に参加することは楽しい」と回答した児童は、全体の７５％であり、昨年度と同様の結果であった。コロナ禍で行動制限があったため、地域の行事や学校の地域と連携した活動において一人一人が活躍する場面が減少したことが原因だと考えられる。制限のある中でも地域に根差した教育活動を地域の方々と共に考え、工夫し、「十条大好きプロジェクト」及び「地域応援プロジェクト」のさらなる推進についての検討していく必要があると考える。

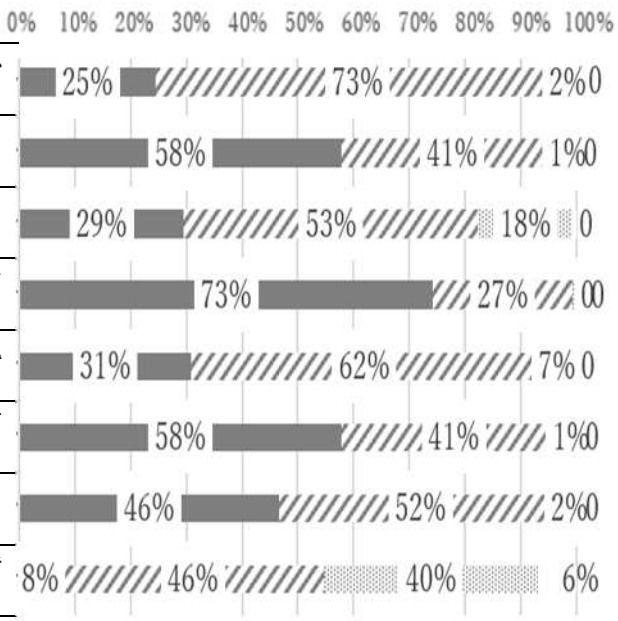
（２）保護者アンケート集計結果



【学校の取組に関して】	
①	学校は、教育目標や学年、学級の目標などを保護者に分かりやすく伝えている。（学校だより、学年だより、ホームページ 等）
②	学校は、規範意識や社会生活上のルールを守る態度を育てている。（王五小学校生活８つのきまり、放課後・校外での過ごし方８つのきまり 等）
③	学校は、子どもに学力が身に付くように教え方を工夫して、主体的に取り組む授業を行っている。（算数科の校内研究、王五小授業中の学習ルール 等）
④	学校は、コロナ禍においても、子どもの体力向上に受けた活動（おうご体操、なわとび 等）に力を入れている。
⑤	学校は、宿題や課題（ラインズｅライブラリ、自主学習ノート 等）を適切に与え、家庭学習が充実するよう工夫している。
⑥	学校は、道徳教育に力を注ぎ、子どもに思いやりの心や社会性を育てている。（道徳授業地区公開講座、王五小３つの「あ」、全校一斉 SSE 等）
⑦	学校は、コロナ禍であっても、子どもが関わることの喜びと感謝、感動を実感できる体験活動の充実に努めている。（近隣施設へのお礼）
⑧	学校は、子どもの悩みの相談に乗るなど、トラブルの問題解決に努めている。（教育相談、個人面談 等）
⑨	学校は、地域や学校の特色を生かした教育活動や行事などに取り組んでいる。（十条のまちたんけん、十条駅 111 周年の絵、オリパラ教育 等）
⑩	学校は、保護者や地域の人などが、積極的に教育活動に関われるようコ夫している。（授業参観、学校行事参観、学校運営協議会 等）
⑪	学校は、感染症拡大防止対策を工夫している。（健康観察カード、学級児童数を半分にした分散学習、分散給食、手洗いの習慣化、消毒作業 等）

学校の取組に関する評価は、１１項目全てが８０％以上の肯定的な評価であり、そのうちの５項目については９０％を越える非常に高い肯定的評価を得た。

③「学校は、子どもに学力が身に付くように教え方を工夫して、主体的に取り組む授業を行っている」では、９４％の肯定的な評価であり、２年間取り組んできた校内研究の成果を認めていただいた結果となった。④⑦⑩の項目では、コロナ禍における行動制限下のため、他項目よりも低い。引き続き、制限のある中でも工夫した活動を検討し、工夫した教育活動を実施していきたい。



【家庭の取組に関して】	
①	家庭では、子どもに家庭でのきまりやルールを決め、守らせるように心がけている。
②	家庭では、家族同士であいさつをするように心がけている。
③	家庭では、宿題や課題（ラインズｅライブラリ、自主学習ノート 等）を基に、学習の時間を設けている。
④	家庭では、子どもが人に迷惑をかけたときはきちんと叱るように心がけている。
⑤	家庭では、親子で本を読んだり、共通の趣味をもったりすることなど親子で体験を共有することを大切にしている。
⑥	家庭では、子どもと学校であったことを話し合ったり、できるだけ子どもと一緒に食事をする時間をつくったりしている。
⑦	家庭では、子どものよいところを認め、褒めるように心がけている。
⑧	家庭では、地域の清掃や当番活動など十条のまちの活動に家族ぐるみで参加するように心がけている。

家庭での取組に関しては、８項目のうち、６項目が 80％以上の肯定的な評価を得た。

③の項目では、肯定的な評価が８２％に止まっている。学習用タブレット端末等を活用した家庭学習の充実や家庭学習の習慣化については、次年度へ向けた課題として捉え、校内で方策を検討していく。また、⑧については、昨年度と比較すると肯定的な評価が８ポイント下回る回答状況であった。今年度も昨年度と同様に行動制限があるため、地域の清掃活動等が中止になっている。コロナ禍においても地域と連携した取組を工夫し、十条のまちの魅力を学ぶ教育活動をさらに検討する必要がある。